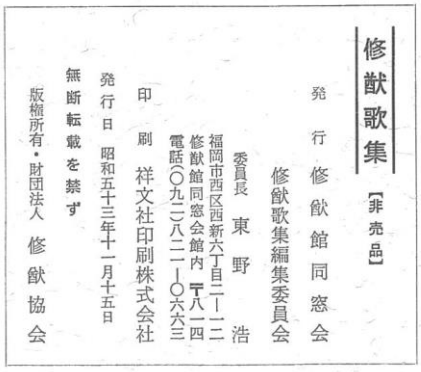
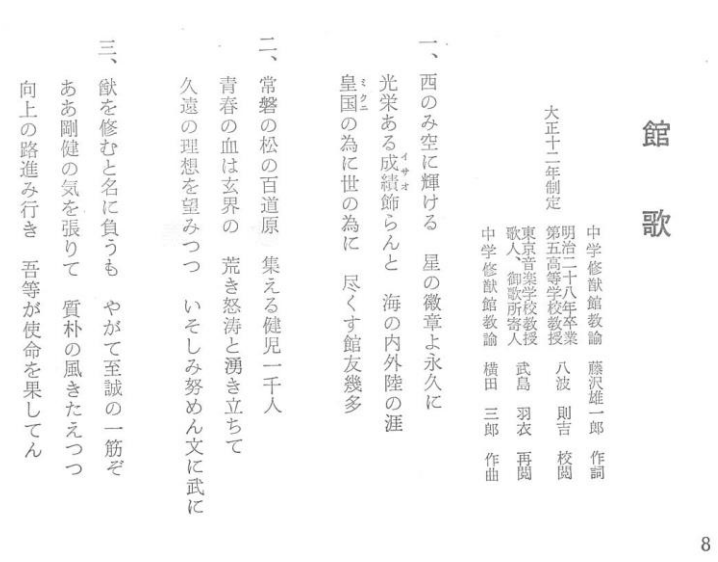
【調査結果（公式見解）・再】

修猷館高校ならびに同窓会歴史伝統伝承委員会において、館歌２番「ゲンカイ」の表記を「玄界」に統一する経緯について、下記の内容を確認しました。

同窓会員より現役生に対して応援歌を紹介・指導する「応援歌伝承会」が昭和５３年より始まりました。あわせて、指導において現役生に配付される「修猷歌集」が編集・発行されました。


修猷歌集 【非売品】
発行 修猷館同窓会
修猷歌集編集委員会
委員長 東野 浩
福岡市西区西新六丁目二一一二
修猷館同窓会館内 〒八一四
電話〇九二八二一一〇六六三
印刷 祥文社印刷株式会社
発行日 昭和五十三年十一月十五日
無断転載を禁ず
版権所有・財団法人 修猷協会

この歌集では、「玄界」と表記されております。



館歌

中学修猷館教諭　藤沢雄一郎　作詞
明治二十八年卒業
第五高等学校教授　八波　則吉　校閲
大正十二年制定
東京音楽学校教授
歌人、御歌所寄人　武島　羽衣　再閲
中学修猷館教諭　横田　三郎　作曲

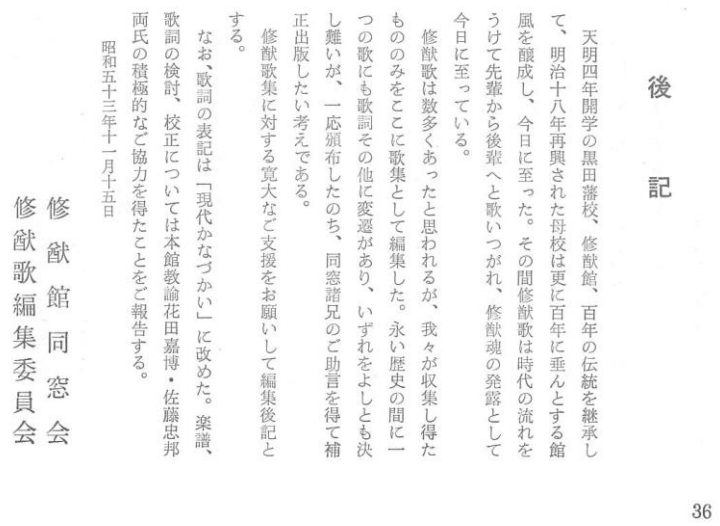
一、西のみ空に輝ける　星の徽章よ永久に
光栄ある成績飾らんと　海の内外陸の涯
皇国の為に世の為に　尽くす館友幾多

二、常磐の松の百道原　集える健児一千人
青春の血は玄界の　荒き怒涛と湧き立ちて
久遠の理想を望みつつ　いそしみ努めん文に武に

三、猷を修むと名に負うも　やがて至誠の一筋ぞ
ああ剛健の気を張りて　質朴の風きたえつつ
向上の路進み行き　吾等が使命を果してん

8

また最終ページの「後記」では、「楽譜、歌詞の検討、校正については本館教諭花田嘉博・佐藤忠邦両氏の積極的なご協力を得たことをご報告する。」との記載があります。



後記

天明四年開学の黒田藩校、修猷館、百年の伝統を継承して、明治十八年再興された母校は更に百年に垂んとする館風を醸成し、今日に至った。その間修猷歌は時代の流れをうけて先輩から後輩へと歌いつがれ、修猷魂の発露として今日に至っている。

修猷歌は数多くあったと思われるが、我々が収集し得たもののみをここに歌集として編集した。永い歴史の間に一つの歌にも歌詞その他に変遷があり、いずれをよしとも決し難いが、一応頒布したのち、同窓諸兄のご助言を得て補正出版したい考えである。

修猷歌集に対する寛大なご支援をお願いして編集後記とする。

なお、歌詞の表記は「現代かなづかい」に改めた。楽譜、歌詞の検討、校正については本館教諭花田嘉博・佐藤忠邦両氏の積極的なご協力を得たことをご報告する。

昭和五十三年十一月十五日

修猷館同窓会
修猷歌編集委員会

36

これをもって、「玄界」に統一されたものと解釈しております。この経緯につきましては議事録等が残されておらず、詳細をお答えすることはできませんが、当時を知る元教諭（この検討には直接参加しておられません）のお話では、「玄界」なのか「玄海」なのか、「そもそも統一する必要はあるのか」といったことも話し合われていたようだとのことです。

昭和５３年より始まったＯＢの方々による応援歌伝承会、入学直後の応援歌指導において、この「歌集」をもとに館歌にある「ゲンカイ」を「玄界」として継承してきております。すでに、

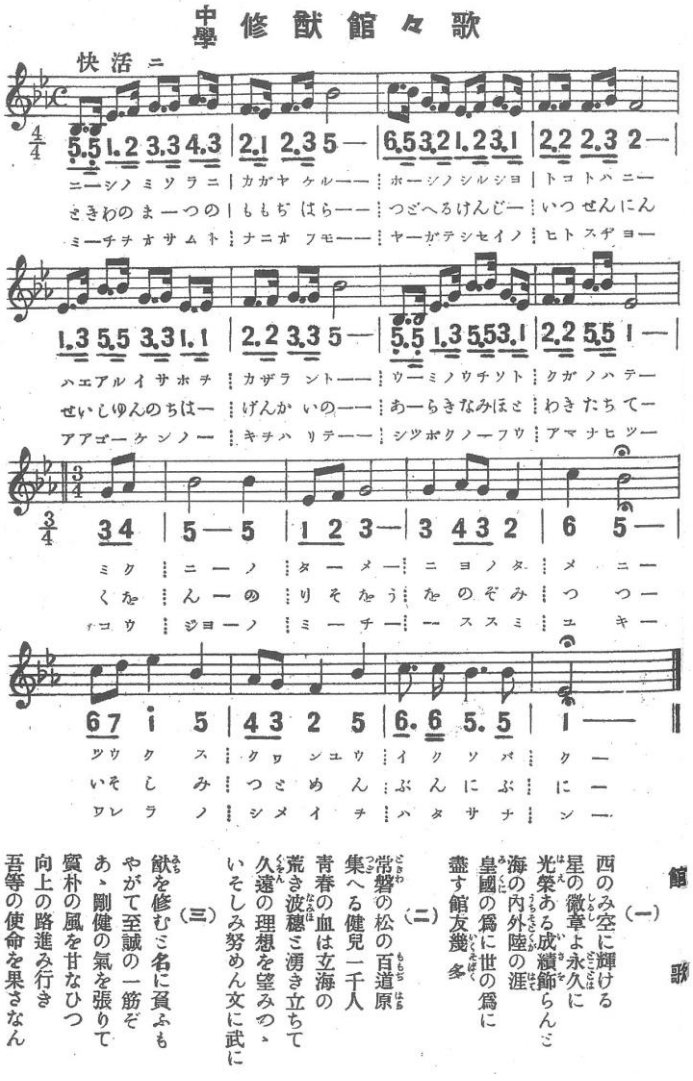
その数は卒業生約２０，０００人（昭和５４年卒以降）になります。

また、７年後の昭和６０年に発行されました「修猷館二百年史」を本館では正史として扱っており、その中でも発行当時の館歌の歌詞としては「玄界」と表記されております（６７８ページ）。

以上の内容を踏まえ、館歌２番の歌詞「ゲンカイ」は「玄界」であると考えております。

なお、今回のご指摘を受け再調査する過程で、新たな資料が見つかりました。本校図書館において、「學友會雑誌　第六巻」（注）の「同窓会雑誌　第５９号　創立４０周年記念・卒業生３千人記案念号」の巻頭言の前ページに、付録として「中学修猷館々歌」が収められていました。

（注）修猷館同窓会雑誌部より年２回定期　　発行されていた「同窓会雑誌」の第５１号〔大正１０年7月１５日発行〕～６０号〔大正１４年１１月３０日〕までの合本として作成されたもの。当時の「同窓会」とは、現役生徒と卒業生が一体化した呼称であったと考えられる。



この時点では「玄海」と表記してあります。

また、「修猷館二百年史」１９４ページに記載のある「館歌制定時の歌詞」（発行当時は当時を知る先輩方からの伝聞により作成）で示されていた、現行歌詞との３ヶ所の違い（注）も正確であったことが明らかとなりました。この件に関しましては、昭和１７年卒伊藤康彦先輩に確認したところ、先輩がご入学された時には既に現行の館歌であったとのことでしたので、昭和１０年前後までの間に変更されたものと推測されます。残念ながら、その経緯を示す資料などは見つかっておりません。（注）

（注）　二番　「荒き波穂と湧きたちて」
　　三番　「質朴の風を甘なひつ」
　　三番　「吾等の使命を果さなん」

「修猷歌集」「修猷館二百年史」発行以降、「玄界」の表記が徹底されないまま、「玄界」と「玄海」が混在しておりました。学校では２００１年（平成１３年）頃、当時の管理職・学校関係者ならびに「修猷館二百年史」編集委員の方々と「修猷館二百年史」を正史とすることを確認し、「学校要紀」は平成１３年度から、「卒業アルバム」は平成１４年卒から「玄界」と修正しております。

それ以降も、他の発行物において「玄海」と表記されることがあり、これまでに見過ごしてきた経緯はありますが、今後このようなことがないよう、さらに注意してまいりたいと考えております。